

研究テーマ 楽しみながら発想を広げるための鑑賞の工夫  
—第6学年「見つけたことを話してみよう」の実践を通して—

八千代町立中結城小学校 教諭

## I 研究テーマについて

鑑賞の活動では、「色」「形」などの造形的な視点をもとに話し合ったり文章にしたりする。しかし、児童によっては表現するための語彙が不足しているため、うまく表現できずに、発想をあまり広げることができないことが多い。鑑賞の活動において、児童がより深く作品に入り込み、楽しみながら発想を広げるための鑑賞の工夫を探ることをテーマとする。

## II 研究の実際

### 1 題材名 見つけたことを話してみよう

### 2 題材の目標

- 対象に興味や関心をもって働きかけ、絵の中から見つけた人やものについて、友だちと話し合うことを楽しむ。 (関心・意欲・態度)
- 自分の経験と重ね合わせたり、表現の特徴をとらえたりしながら、自分らしい見方や感じ方で、絵の中の人やものなどについて考える。 (発想や構想の能力)
- 自分や友だちの見方や考え方、発想の面白さや楽しさに気づく。 (鑑賞の能力)

### 3 題材について

#### (1) 児童の実態

鑑賞活動においては、友だちの作品を見て、造形的な視点をもとに感じたことを文章にすることができます。また、途中鑑賞会では、小グループの中で友だちの作品に興味を示し、よさを伝えたりアドバイスを求めたりする姿があった。しかし、造形的な視点においては、児童によって気づく視点の数や、視点ごとに感じたことなどの気付きの深さには大きな個人差がある。個人の言語力の差にも原因があるが、それ以上に一人一人がより意欲をもって作品のよさを探せるようにしたい。

本学級の児童は、表現活動内での途中鑑賞や、完成した作品の相互鑑賞を主な鑑賞として活動している。しかし、初めて出会う一つの作品を全員で深く味わうような、一時間かけてじっくり鑑賞する授業を経験していない。気付いたことを学級全体で共有する時間や価値を味わわせ、多くの考え方や意見があるからこそ作品理解が深まるというような鑑賞する楽しさを実感させたい。

鑑賞後には版画の学習を予定している。幾つかの浮世絵を参考に、日本画のよさを味わいながら制作を進める予定である。風神雷神図屏風は浮世絵とは技法が異なるが、同じ日本古来の絵画である。風神雷神図屏風の鑑賞の授業で培った発想力や表現力を生かしながら、版画の学習に取り組むことができるようにならねたい。

#### (2) 題材観

児童が使用する開拓堂の教科書には、単元「見つけたことを話してみよう」におい

て、俵屋宗達の「風神雷神図屏風」が掲載されている。風神と雷神については、メディアで風神と雷神がキャラクター化されるなど数多く使用されていて、児童にも親しみがある。よって鑑賞の活動に扱いやすい作品といえる。また、児童の多くは社会科の歴史の学習に強い興味をもち、意欲をもって学習している児童が多い。京都にある仏閣には実際に「風神」「雷神」が存在することなど、諸説の多い風神雷神図屏風について、様々な視点から興味を引くような内容を伝えたい。

### (3) 指導観

一昔前、小中学生の間で流行した「プロフィール帳」というものがある。用紙には「氏名」「年齢」「趣味」「好きなもの」など、書き手のキャラクターを明確にするための項目が数多く並ぶ。自分で自分のプロフィール帳を記入し、親しみのある友だち同士でよく交換されていた。今回の「風神雷神図屏風」などの特に日本画は、小学生にとって日常で触れる機会が少なく、全体の印象として「堅い」「触れにくい」「難しい」「敷居が高い」ような印象が少なからずある。よって今回は、日本画に対して「楽しい」印象をちらながら学習を進めるために、風神雷神図屏風の登場人物二人のキャラクターや関係性に重きをおき、二人のプロフィール帳を作成する設定とした。ワークシートにも親しみのある工夫を入れ、児童が意欲をもって楽しく想像を働かせることができるようにしたい。気軽につぶやきが生じるように小グループでの学習を取り入れた後、学級全体でも、造形的な視点をこちらでいくつか絞りながら共有し、作品のよさや、お互いの考えを伝えあうことのよさを深めたい。

## 4 題材の評価基準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	鑑賞の能力
対象に興味や関心をもつて働きかけ、絵の中から見つけた人やものについて、友だちと話し合うことを楽しもうとする。	自分の経験と重ね合わせたり、表現の特徴をとらえたりしながら、自分らしい見方や感じ方で、絵の中の人やものなどについて考えることができる。	自分や友だちの味方や考え方、発想の面白さや楽しさに気付くことができる。

## 5 指導と評価の計画(2時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価基準・【評価方法】
第一次 (1時間)	①個人で絵をじっくり鑑賞し、気付いたことをワークシートに書き込む。 ②小グループでどんなことに気付いたか共有する。	・絵の中から見つけた人やものについて、興味をもって友だちと話し合おうとする。 関【観察】 ・作品から造形的な視点について気付いたことを言語化することができる。 鑑【ワークシート・観察】
第二次 (1時間)	①前時の気づきを根拠として、風神雷神二人のプロフィール帳を作成し、	・前時の気づきをもとにして、風神雷神二人の人間性や関係性など、

<p>二人の人間性や関係性をはじめ想像したことを書く。</p> <p>②小グループで共有する。 ③全体で共有する。</p>	<p>自由に発想を広げることができ る。</p> <p><b>発【ワークシート・発表・観察】</b></p> <p>・他者と考えを共有することで、お互いの考えのよさを感じたり、作品に対する考え方を深めたりするこ とができる。</p> <p><b>鑑【ワークシート・観察】</b></p>
---	---

## 6 指導の実際

第一次 風神雷神図屏風を鑑賞し、見て気付いたことを書いたり話したりする。(1時間)

(事前準備)

- ・絵画の迫力を演出すると同時に、絵の細かい描写にも気付きがあるようになるため、風神雷神図屏風は等身大ほどの拡大図版を用意する。
- ・作品との特別な出会いを演出するため、作品には布をかけておき、子どもたちが揃ったら、布を取る。

(導入)

- ・1時間たっぷりの鑑賞授業は初めてなので、鑑賞するにあたって正答はなく、想像を広げ自由に観ることや、友だちの発言は否定せず拍手で受け入れるなど、意見を出しやすい雰囲気づくりに努める。

**【作品を観るきまり】**

- ・正答はない。想像を広げ、自由に観ること。
- ・友だちの発言は拍手で受け入れること。

(展開)

- ・絵の周りに集まり、絵に近づいたり離れたり、友達と話したりしながら、自由に鑑賞する時間を見る。
- ・絵を見て気付いたことを資料1のワークシートに記入する。造形的な視点を以下7項目とし、じっくり記入する時間を見る。

**☆造形的な視点7項目**

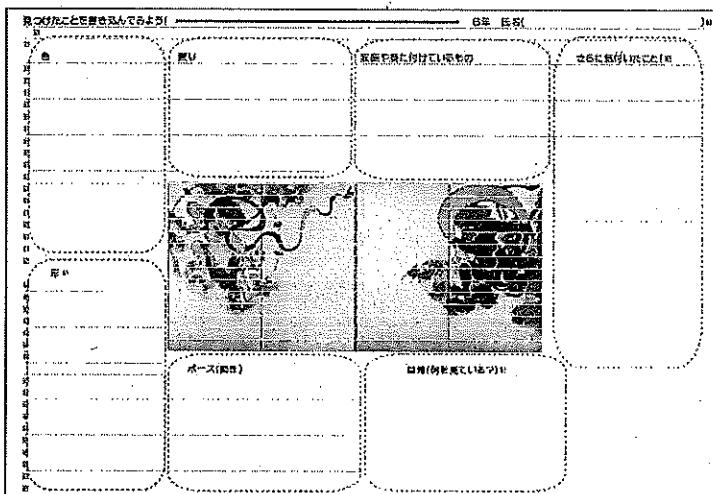
- ・「色」・「形」
- ・「周り」…本物の日本画は、金箔が貼られている部分がある。複製画を鑑賞するため、「黄色」ではなく金箔であったことを伝えたい。見た目の四角の連なりは金箔ならではのテクスチャであることを口頭で伝えたり、本物の金箔を児童に見せたり触れさせたりして、薄くて破れやすい性質や金色の特別感などの雰囲気を味わせたい。また、金箔上に描かれている暗雲にも注目させたい。
- ・「服装や身に付けているもの」…風神と雷神で身に付けているものが少し異なる。雷神の太鼓や、風神の袋状の持ち物に着目させたい。

- ・「ポーズ（動き）」
  - ・「目線（何を見ているか？）」
  - ・「さらに気付いたこと」
- …ポーズや目線によって、二人が何に注目して何をしているのかなど、意図や思いに着目させ、次時に生かしたい。
- ・ワークシート記入時には、造形的な視点の項目毎に、参考になるよう言葉の例を黒板にいくつか記し、記入のヒントとなるようする。
  - ・小グループで話し合う。

(まとめ)

- ・学級全体で話し合う。

※資料 1 →



**第二次 前時の気付いたことをもとに、風神雷神それぞれの人間性や二人の関係性について発想を広げながら友だちと考えを伝え合う。(1時間)**

(導入)

- ・前時ではどのような内容が発表されたのか確認する。

(展開)

- ・前時に気付いたことを根拠として、プロフィール帳を記入しながら、発想を広げて風神雷神それぞれの人間性を考える。※資料2

☆人間性に関する項目・・・「名前」・「年齢」・「職業」・「性格」・「今の気持ち(表情から察して!)」・「二人はどんな会話をしているのか」・「わたしは今、～しようとしています！」・「わたしは今、～にいます！」

- ・前時に気付いたことを根拠として、プロフィール帳を記入しながら、発想を広げて二人の関係性を考える。※資料2

☆関係性に関する項目・・・「二人はどんな関係？」

- ・3~4人の小グループで考えを伝え合う。

伝え合う時には、気付いたことをもとにして考えた根拠を話すまりにする。

例「名前は○○だと考えた。理由は、色が○○で、○○しているように見えるから。」

- ・話し合いが円滑に進むよう、話し合いヒントワードを拡大して掲示しておく。

【話し合いヒントワード】

- ・根拠を問う「どこを観てそう思ったの？」
- ・共通点「私もそこは面白いと思った。だって□□だと思ったから。」

- ・相違点「私は○○さんと違って、□□だと思ったよ。だって□□だと思ったから。」
- ・新発見「こんな所にこんなものがいた(あった)んだね。」「なるほど！」
- ・付け足し「○○ということは、□□かもしれないね。」
- ・全体で共有する時にも、教師は否定的な発言はせず、基本受け入れる姿勢をとる。また、何故そう思ったのか質問し、根拠を問うことで内容を掘り下げ、深い学びに繋がるようにする。

#### (まとめ)

- ・グループ毎の代表児童や意図的氏名によってを発表し、全体で共有する。
- ・作者名や時代、もととなつた仏像、背景はもともと金箔であったこと、屏風はろうそくの火で照らされ、畳の上に置かれていたことなど、風神雷神図屏風について興味をもつことができるような事実の内容を幾つか伝える。
- ・今後の活動では、浮世絵を参考にしながら版画の学習を行うことを伝える。

#### ※資料2→

見つけたことに、考え方などを話し合おう!  
二人のプロフィール帳▼

	●名前 ●年齢 ●性別 ●住む ●今の気持ち(教員から察して!)		●名前 ●年齢 ●性別 ●住む ●今の気持ち(教員から察して!)
●わたしは、 ●わたしは、	をしています! にいます!	●わたしは、 ●わたしは、	をしています! にいます!
●三人はどうなった? ●なぜそぞろ歩いたのか? ●どうして笑ったのか? ●からそぞろ歩いたのか?			
●この絵の表現方法をどうぞ。			

### III 研究の成果と課題

#### 1 成果

学級全体で共有する活動では、友達の意見から造形的な視点に立ち返り、考えを広げたり深めたりする様子が見られた。職業や性格の記入欄を設ける事によって、登場人物2人の表情やポーズ、体つきや持ち物などが根拠となり、児童それぞれの自由な発想に繋がったようである。友達の意見を温かく受け入れる雰囲気があり、発表者は楽しく安心して発表を進めることができた。

授業終わりに児童が記入したワークシートには、「表情や形で何をやっているのか想像できて面白かった。」「二人の気持ちや様子を考えることで、絵をよく観ることの楽しさに気付いた。」等の意見のように、造形的な視点から絵を観たり、発想を広げて絵を観ることのよさに気付く姿が見られた。また、「初めは二人とも同じように見えたが、どちらも全然違っていた。」「絵は人をつなぐ力があると思った。」「友だちの意見を聞くことは新鮮で面白かった。」等のように、友だちと考えを伝え合うこ

との価値やよさに気付く姿も見られた。

本物の金箔を用意し、実際に児童に触ってもらったところ、「こんなに薄くもろいとは思わなかつた。」「これを貼った昔の人はすごい。」など、作成当時に思いをはせる児童がいた。また、光の加減によりきらめく金箔の様子から、「金箔が貼られた初めの頃はもっとピカピカだったのだろうなあ」と作品の当初の様子に思いをはせる児童もいた。

## 2 課題

授業時には、造形的な視点から記入する際のヒントを板書で用意できなかつたため、語彙力の少ない児童はワークシートの記入も比較的少なかつた。次回の鑑賞の授業ではぜひヒントの板書を用意し、万全の状態で実践したい。

実際の授業では、2時間の計画内容を1時間で行つてしまつたため、途中で活動を切らなければならなかつた。よつて、最も大切な考え方の根拠となる活動「造形的な視点についての気付き」を充分に広げることができなかつた。次回の鑑賞では、じつくり造形的な視点について多くの気付きができるよう配慮したい。

拡大図版を提示してすぐは、図版に対して「教科書に載つているから知つてゐる。」と発言し、興味が高まらない児童が少数だがいたようである。しかし、その後は絵に近寄つてみると、細かい気付きが幾つもあり、作品に興味を示すことができた。風神雷神図屏風は、日本を代表する誇るべき日本画の一つである。だからこそ、作品と児童の出会いをもっと大切に飾りたかった。本物の屏風に図版を貼り付け、当時のように畳の上、且つ暗い部屋でろうそくの光のみで鑑賞するなど、手間がかかつても「本物らしさ」「特別感」を児童に感じさせるようにしたい。

### ※参考資料

- ・上野行一 他（著）『モナリザは怒つてゐる！？－鑑賞する子どものまなざし』
- ・井上 謙 + NHK びじゅチューン！制作班（著）『びじゅチューン！ DVD BOOK』
- ・「小林美術科学」HP より『風神雷神図屏風 俵屋宗達』
- ・「コロコロのアート 見て歩記&調べ歩記」HP より『対話式鑑賞との出会い：俵屋宗達《風神雷神図屏風》を通して感性を伸ばす』